

[担当教員]

槻橋修（准教授）

小林直紀（安井建築設計事務所） 中江哲（鹿島建設）

[Teaching Assistant]

大脇春（A66） 越智誠（A66） 村上遼（A66）

■課題の概要

現代都市に暮らす人々にとって、子供を産み育てることには様々な課題がある。要因としては核家族化による地縁の希薄化、女性の社会進出による共働き夫婦の増加、単親世帯の増加などが挙げられる。子育ての負担が親に集中することが、都市でのライフスタイルとの間でストレスを生み、育児ノイローゼや幼児虐待といった招かれざる事態の遠因ともなっている。

従来より社会における「発達保障」の場として児童福祉施設は整備されてきているが、現代のような家族観、自然観が多様化する時代において、都市は子供達に、また子供を育てる親たちに、どのような場所を提供すればよいだろうか。本課題では以下に挙げる3つの方向性からひとつを選択し、子供のための空間、都市における福祉のあり方について考えてもらいたい。

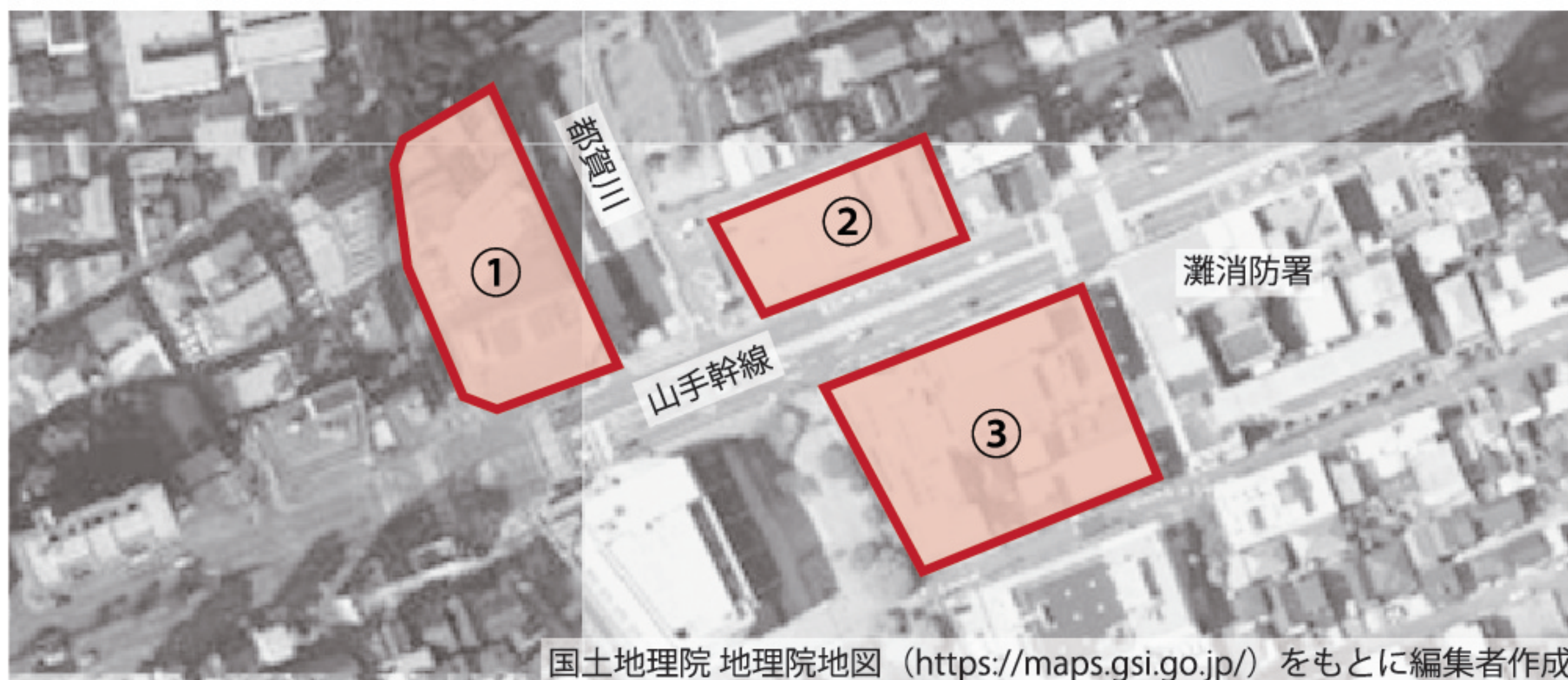
- (1) 次世代をになう児童達が、健やかに育つための支援環境として、自由に利用できる施設。
- (2) 子育てに関わる様々な人が自由に集まり、交流するための施設。
- (3) 乳幼児の発達保障の場、生活空間を提供する施設。
- (4) 3つの施設が、交差点を中心に子育てスクエアとして一体的な空間をつくるように、それぞれが尊重すべき共通のデザインの方針（デザインコード）を設定することが望ましい。

■敷地

灘区都賀川の河川公園に隣接する敷地で、周辺は住宅地。

- ・「児童館」敷地①約 2030 m²＝東西 30m× 南北 70m(変形あり)

- ・「子育てカフェ」敷地②約 1550 m²＝東西 62m× 南北 25m
- ・「保育所」敷地③約 3100 m²＝東西 62m× 南北 50m
- ・用途地域等（近隣商業地域 / 建蔽率 80%, 容積率 400%, 防火地域）



国土地理院 地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp/>) をもとに編集者作成

課題；敷地

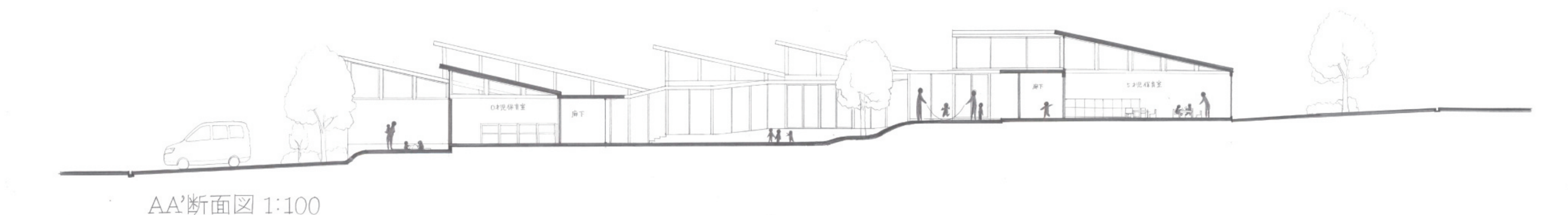
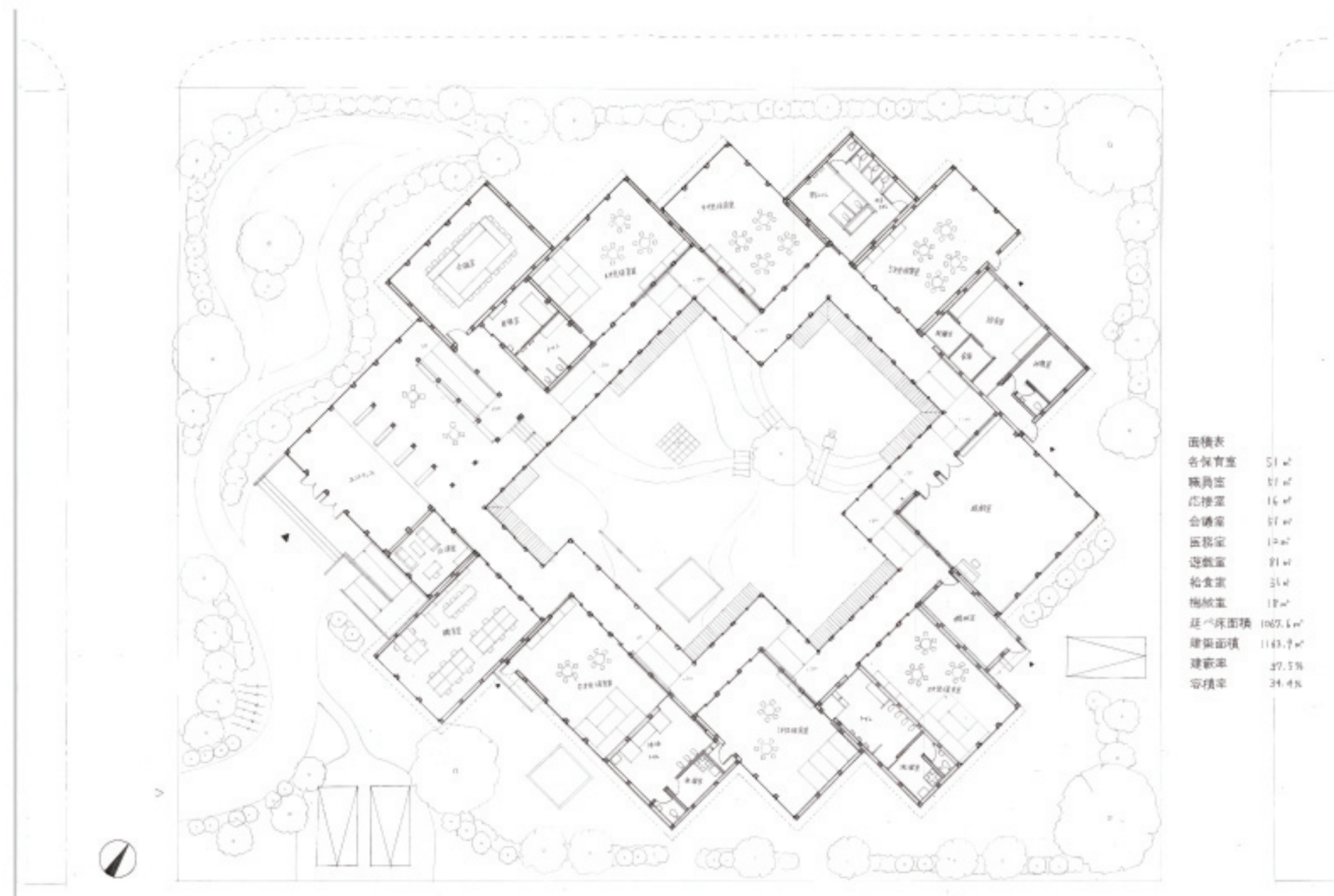
■講評会の様子



個が向く

濱田菜緒

子供たちに周辺環境とつながりを持たせることを目指した。都賀川に臨む方角にすべての建物を向け、中庭に面して回廊を設けることで、子供たちは敷地内外にとらわれず遊ぶことができる。部屋ごとに屋根をかけた建物は子供たちそのものを表している。



AA'断面図 1:100

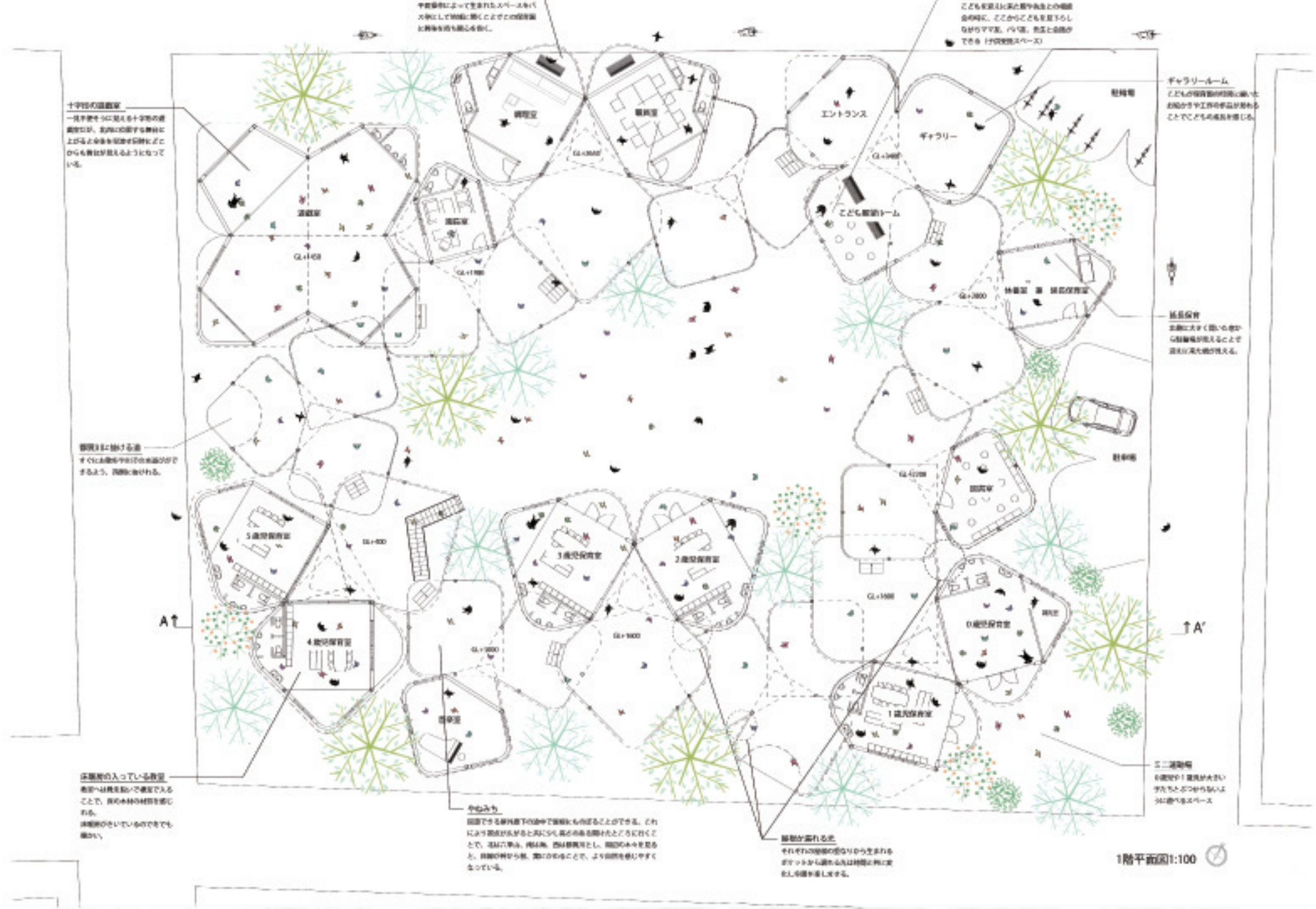
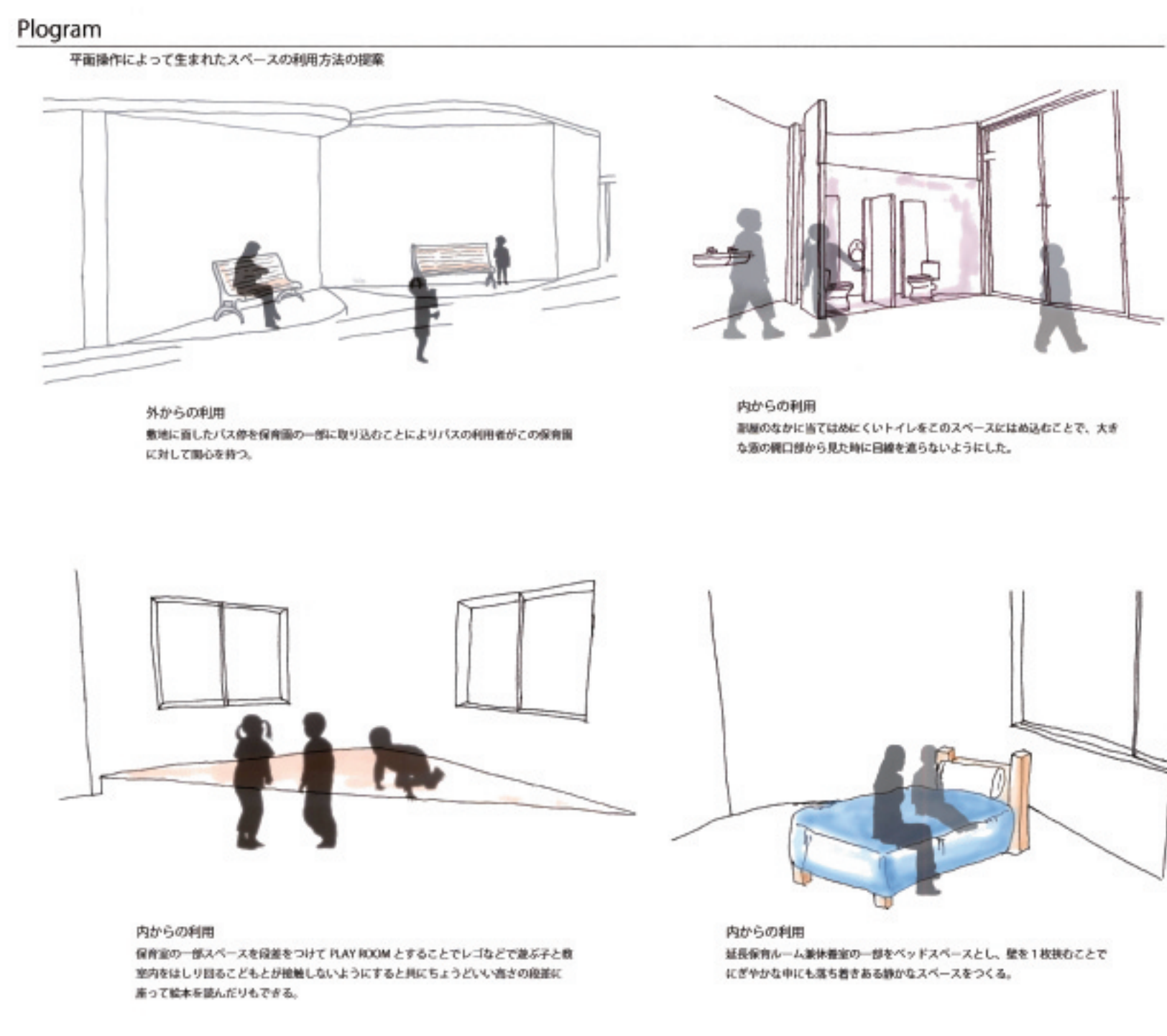
UNIT×Garden

谷口浩都

半屋外の遊び場で保育園全体を活動空間に。屋外空間が1つの環でつながり『屋外回廊』となることで、めぐり、出会い、憩うなどのこどもたちの遊び活動が平面的かつ立体的に縦横無尽に広がり、こどもたちがのびのびとした生活を送れることを可能とする。



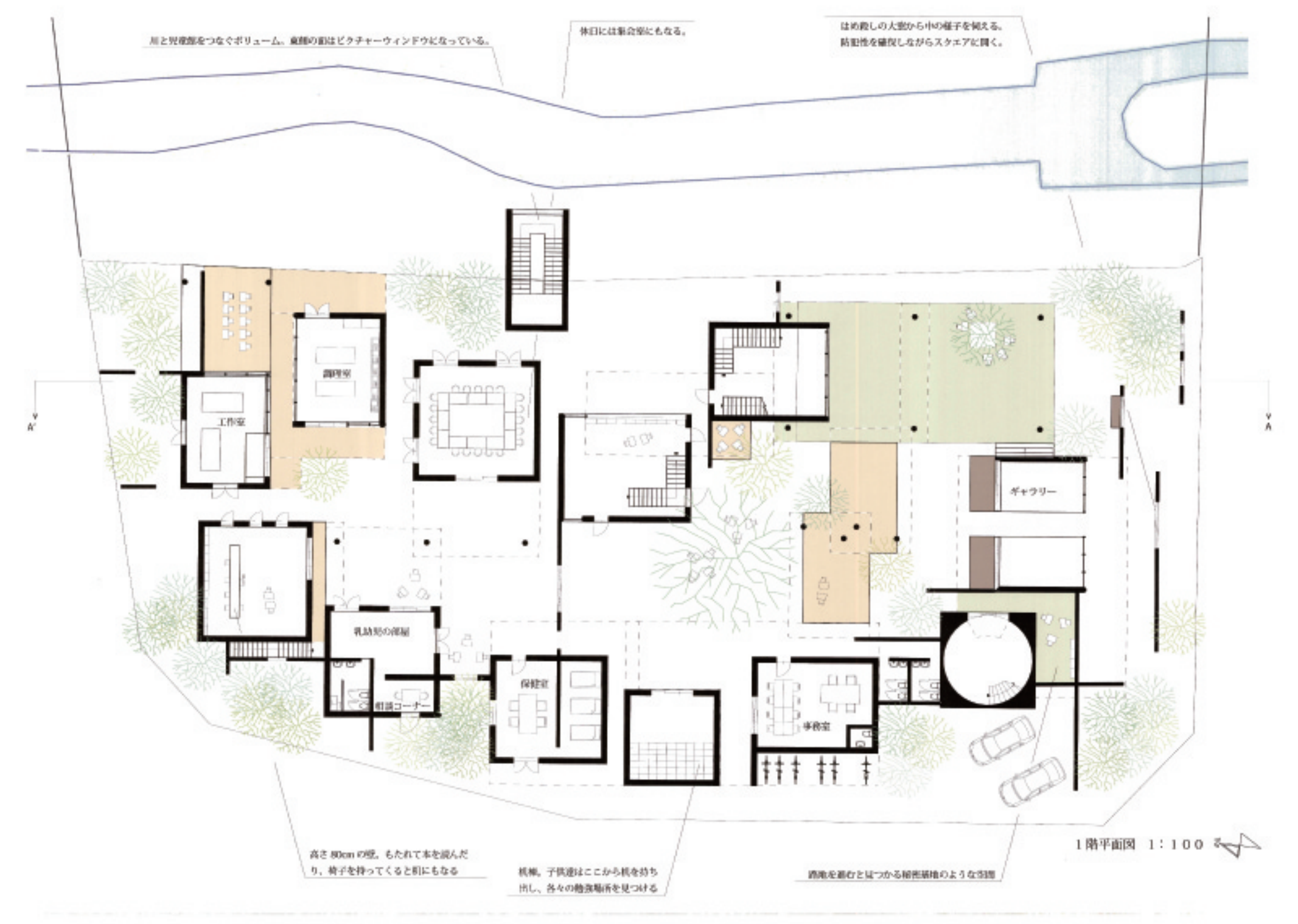
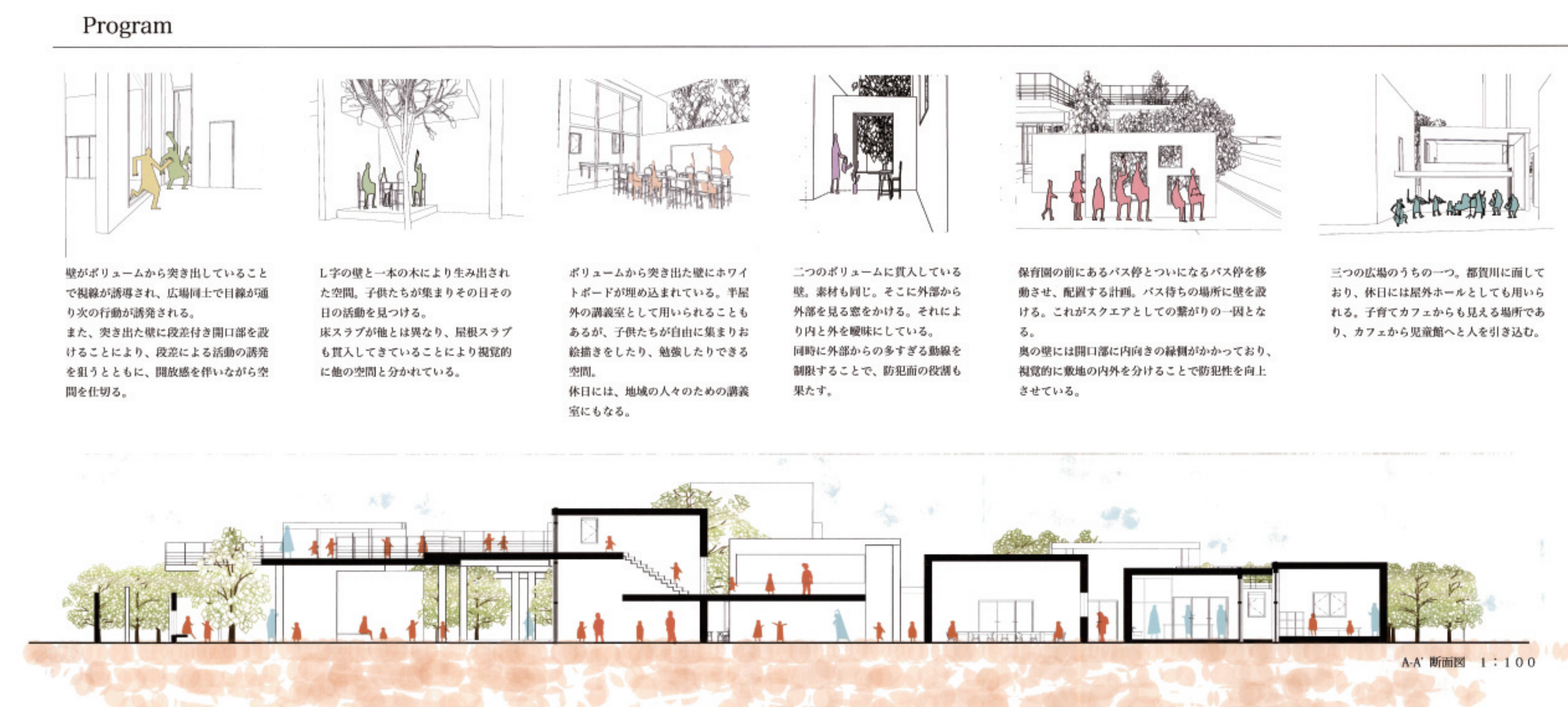
UNIT×Garden



間を色取る

高橋和志

子供たちは日々公園で多種多様な遊び方、遊び場所を見つける。そこに固定はない。それぞれに特徴のある空間で、日々子供たちが新たな場所を探し、自分の場所を見つける、公園のような児童館を提案する。



巢と建築のあいだで。

黒木孝司

こどもと建築について考えたとき、その間にある溝はあまりにも大きい。建築の前段階的な空間である「巢」の“made or chosen”という要素を通じてこどもが空間を思考する体験ができる場所を児童館として提案する。



繋

力武真由

保育所に来る子供たちは 0 歳から 5 歳。純粹無垢な子供たちは様々な経験を通じて、いろいろなことを学んでいく。子供たちが自分の周りにあるものと繋がっていく保育所。繋がることの喜びを知った子供たちは、今度は自分たちが社会をつないでいく。

